

# 牛久：学校周辺に見る自然

第14号 ひたち野みずべ公園（ひたち野うしく小）

2019年5月29日発行

## ＜ 初夏のみずべ公園 ～⑤さくらに来る虫たち ＞

5月9日ひたち野うしく小3年生と、16日1年生とのみずべ公園の生きもの観察、今回はさくらと、そこに来た虫たちの紹介です。



ヤマザクラの果実がだいぶくらみ、赤く色づき始めたものもありました。ヤマザクラの“さくらんぼ”ですね。同じさくらといっても、実のつきかたや大きさ、色などだいぶちが違いがあります。くらべてみましょう。熟した果実は鳥が大好きで、ちょっとした色の差も区別できるのでしょう。うちの庭のサクランボも、熟した順に食べていけました。

色づき始めた、ヤマザクラの果実。



幹に目をうつすと、いました。おなじみのヨコヅナサシガメです。まだ、おおぜいでかたまっています。成虫と幼虫とまじって、中には羽化の最中のももいました。

ヤマザクラの幹のほみに、ヨコヅナサシガメ。羽化中のもも（右）。



何ザクラだったか、うっかり確認しませんでした。葉が赤く縮れているさくらがありました。これはサクラハチチミフシとよばれている虫こぶで、アブラムシが産卵し繁殖することによってつくられたものです。中を開くと、たくさんのアブラムシがいます。6月にヨモギに移りすみ、秋にまた、さくらに戻ってくるそうです。

【理科支援員：宮内】

サクラハチチミフシ(サクラコブアブラムシによる虫こぶ)。